

- 01 財務部  
02 農林水産部  
03 経済産業部  
04 運輸部  
05 運輸部

05  
運輸部

仕事の

窓

「心のバリアフリー」を目指して

Point  
急速な高齢化や身体障害者の社会参加の要請に適切に対応し、誰もが公共交通機関を円滑に利用して移動ができるためには、施設整備（ハード面）だけでなく、誰もが手助けしやすい環境づくり（ソフト面）も重要になります。

# 交通バリアフリー教室の開催について

## 交通バリアフリー教室の開催

沖縄総合事務局運輸部では、平成13年度から毎年、「交通バリアフリーカー教室」を開催し、健常者を対象として、高齢者、身体障害者の擬似体験や介助体験を行い、交通バリアフリーについての理解を深めるとともに、ボランティアに関する意識を醸成し、誰もが高齢者や身体障害者等に対し、「お手伝いしましよう」と自然に声をかけてサポートできる「心のバリアフリー」を目指しています。

今年度の交通バリアフリー教室は、那覇市立壺屋小学校の「総合的な学習」の一環として、5年生児童33人を対象に沖縄県で唯一の鉄軌道であり、また、バリアフリー化された県内唯一の陸上公共交通機関でもあります沖縄都市モノレールの施設を利用して、10月27日に開催されました。

体験学習では、混雑する空港駅で行われ、一般客が通常通り施設を利用する中、児童は、発券機の使用や車両の乗り降り等に関して、二人組で、車椅子使用者、視覚障害者、高齢者の擬似体験や介助体験を行いました。

また、父母、同校教員、那覇市、那覇市教育委員会、那覇市福祉協議会、沖縄都市モノレール株)から多数の方が参加され、当教室のサポートに尽力いただきました。

トでは、本教室で学んだことから、100%の児童が、今後、困っている人を見かけたら手助けの声をかけるという回答でした。

運輸部としては、今後も引き続き「交通バリアフリー教室」の開催を通して少しでも多くの人たちが交通バリアフリーについて理解を深め、また、「人へのおもいやり」や「さしさ」を感じて今後の活動につなげていく手助けをしたいと考えています。

体験した児童に対するアンケートでは、本教室アンケート結果(回答32名)によると、「今後、困っている人を見かけたら手助けの声をかけると思いますか?」と質問したところ、「する」が71.9%、「多分する」が28.1%、「多分しない」が0%、「しない」が0%、「わからない」が0%でした。

## バリアフリー教室アンケート結果 (回答32名)

Q. 今後、困っている人を見かけたら手助けの声をかけると思いますか?

回答	回答数(人)	回答率(%)
する	23	71.9
多分する	9	28.1
多分しない	0	0
しない	0	0
わからない	0	0

平成18年度

## 交通バリアフリー教室の開催風景

平成18年10月27日 壺屋小学校



車椅子体験及び  
介助体験



視覚障害者疑似体験及び  
介助体験



高齢者疑似体験及び  
介助体験



モノレールの車椅子  
乗降装置説明



オリエンテーション